HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北黄金貝塚における史跡の教育的活用
Author(s)	青野, 友哉
Relation	遺跡の教育面に関する活用 / 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室編（遺跡整備・活用研究集会報告書 / 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室編 ; 平成18年度(第1回)) p. 5-11.
Issue Date	2008-01-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/48501
Type	journal article
File Information	narabunken_aono.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北黄金貝塚における史跡の教育的活用

青野　友哉（伊達市噴火湾文化研究所）

1．はじめに

北海道伊達市教育委員会は1998年から4年間、国指定史跡である北黄金貝塚の整備事業を行った。2001年6月に「史跡北黄金貝塚公園」としてオープンし、現在は、縄文文化を学び・体感できる史跡公園として、年間約2万人の人々に利用されている。

当史跡公園は、市民活動や地域文化の振興に寄与することを目的としているが、近年は団体旅行客の増加に表れているように観光資源としての認識もなされているようである。史跡の活用目的とその方法は多岐に渡るものと考えられるが、本論では最も主要な活用目的である教育面に関する活用について述べることとする。

2．教育目標・方法・対象

（1）教育目標

当史跡公園では以下の3段階の目標を設定している。これは来園者（来園団体）のニーズによるとともに、年齢や時間的制約による場合がある。

①遺跡の理解

北黄金貝塚の調査成果と遺跡の内容を理解してもらう。

②縄文文化の体感・理解

縄文文化の技術や風習、縄文人の精神性の理解とともに、当時の雰囲気を感じてもらう。

③考古学的知識の習得

考古学の方法論を身につけてもらう。

上記の目標は①から③にかけて深化していくものと考えており、初めての来園者には①ないし②を、リピーターには③をというように設定している。

（2）方法

上記の目標を達成するために、以下のような方法をとるが、解説と体験学習を合わせて行うなど、複合した用い方もありうる。

①解説（遺跡と出土遺物の解説）
②体験学習（ものづくり・体験発掘の実施）
③講座（市民対象のミニ講演）
④フィールドワーク（遺跡の踏査－実測・拓本作業も含む）

最も多い組合せは解説と体験学習のセットである。なお、体験学習のみを希望する団体（学校）もいるが、それは一切認めていない。なぜならば、主たる目的は実際の遺跡の上で、その内容を伝え、縄文文化を実感してもらうことだからである。メインの解説を聞かずに、補助手段である体験学習のみを行うことは本末転倒といえる。

（3）対象

年間約2万人の来園者は以下の4つに分類される。

①団体旅行客
②地元の学校
③成人個人客
④家族客

これらの来園者の違いにより、当然ニーズは異なってくる。

例えば、団体旅行客は60～90分の短時間で解説と体験学習を行うことを希望する。実際は解説と体験学習を各45分で行う場合が多い。

また、家族客は子供の年齢と能力に合わせた体験内容を求める。特に、幼稚園児や小学校低学年に対しては、作業が簡単なメニューを用意するとともに、多少難しいものは親とともに行ってもらうことをお

表１．縄文体験メニュー（団体用）【2006年版】

メニュー	内　　容	時　　間	料金	最大人数	雨天時
模擬体験発掘	竪穴式住居やお墓（複製）を発掘します。発掘調査の方法を楽しみながら学べます。中からは本物の土器や石器も出てきます。	30分～１時間	300円	70人	可
釣針づくり	鹿の角を紙やすりで磨いて釣り針をつくります。アクセサリーとしても使えます。	30分～１時間	300円	50人	可
勾玉づくり	滑石という軟らかい石を紙やすりで磨いてネックレスをつくります。	30分～１時間	500円	50人	可
黒曜石のナイフづくり	黒曜石を鹿角のハンマーで加工してナイフをつくります。	30分～１時間	500円	50人	可
縄文ワークシート	公園内の各施設を自分達で歩きながら、縄文に関する問題が書かれた用紙に答えを記入します。（筆記用具を持参してください）	30分	50円	—	不可

※筆記用具を持参してください　＊20名以上で予約を受け付けます　＊体験を行う場合は軍手を持参ください

願いしている。時間的には比較的余裕をもっている場合が多く、作った道具を使用することができる。この時、黒曜石のナイフで切るための材料や弓矢の的などの小道具を用意すると効果的である。

さらに、成人個人客は、より深い内容の解説や最新の考古学情報など、知的好奇心を満足させる内容を求める傾向がある。

３．「遺跡の理解」を目的としたメニュー

（１）遺跡解説＋体験学習

先にも述べたように、団体客には必ず遺跡の解説をしている。その内容は、貝塚の中から埋葬人骨が発見されることを示し、「貝塚は単なるゴミ捨て場ではなく、すべての生き物の墓地である」といった、縄文人の精神世界に光を当てたものにしている。解説はボランティア団体である「オコンシベの会」の会員と学芸員が担当している。人数は、来園者１クラス（約40人）に解説員1人がつくように心がけている。

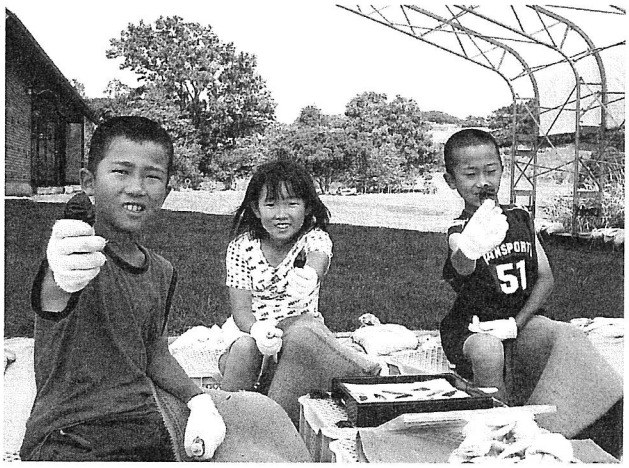

図１．黒曜石のナイフづくり

遺跡の解説とともに、体験学習を加えることがある。しかし、団体旅行の場合、約30～45分の作業時間しかないため、「縄文文化を体感する」との目標にはほど遠く、あくまでも体験学習は「きっかけ」としての位置づけである。

表２．縄文体験メニュー（個人用）年間スケジュール　【2006年版】

期間	メニュー	時間	料金	最大人数
４月１日～30日	釣針づくり	１日２回 １回目10：00～12：00 ２回目13：00～15：00	300円	40人
５月１日～31日	弓矢づくり		300円	
６月１日～30日	火おこし体験		500円	
７月１日～31日	土器・土偶づくり		1000円	
８月１日～31日	勾玉づくり		500円	
９月１日～30日	出土品水洗い体験		300円	
10月１日～31日	土器接合体験		300円	
11月１日～30日	縄文ネックレスづくり ＮＥＷ！		500円	

＊１人からでも可能です。

４．「縄文文化の体感・理解」を目的としたメニュー

（１）体験学習

個人客には１人からでも対応可能なメニューを月替わりで用意している。先の団体旅行客とは異なり、時間的に余裕がある場合が多く、少人数の参加者に時間をかけて対応することが可能である。作業を通して、縄文人の思想や文化について、さりげなく解説することで、参加者自身が縄文時代に思いを巡らす機会を提供している。

なお、これらの参加者は家族客が多い傾向にあり、リピーターとなる場合も多い。

図２．クマの皮なめし体験

●伊達市北黄金貝塚『縄文ロビー講座』一覧

【2001年】**縄文研究最前線**「ここまでわかった縄文文化」 **■講　師**：大島直行（伊達市教育委員会　文化財課長）

第1回	9月30日	縄文文化のひろがり―縄文文化はどのように発展したか―
第2回	10月28日	縄文人はサケを食べたか―縄文のサケマスを考古学する―
第3回	11月28日	縄文の家はなぜ焼けたか―火事からわかる縄文の社会―

【2002年】**縄文研究最前線**「ここまでわかった縄文文化」 **■講　師**：大島直行（伊達市教育委員会　文化財課長）

第4回	4月28日	不思議な縄文貝塚―貝塚はゴミ捨て場か―
第5回	5月28日	抜歯はなぜ行なったのか―痛みに耐えてよく頑張った、感動した―
第6回	6月26日	縄文土器を読む―かたちと文様には意味はあるか―
第7回	7月24日	縄文時代のタブー―自然を護るための知恵―
第8回	8月27日	水場遺構は祭祀の場所―祭祀か生業か―
第9回	9月25日	異形食器は何に使ったか―酒盛り説はまんざらでもない―
第10回	10月28日	アクセサリーを考える―オシャレか魔よけか―
第11回	11月28日	縄文シャーマンはいたか―クジラの刀の持ち主をさがせ―

【2003年】**縄文研究最前線**「ここまでわかった縄文文化」 **■講　師**：大島直行（伊達市教育委員会　文化財課長）

第12回	4月27日	縄文人の動物儀礼―イオマンテはどこまで遡れるか―
第13回	5月25日	盛り土遺構は誰が造った―土木工事か祭祀場か―
第14回	6月29日	土偶に込められた願い―女神信仰はなぜ始まったのか―
第15回	7月27日	イノシシ・マムシ・サメ信仰―縄文世界観を共有する―
第16回	8月31日	北海道のクリとトチ―食べ物？それとも供え物？―
第17回	10月26日	続縄文は縄文か―精神的なものの本質にせまる―
第18回	11月30日	縄文からアイヌへ―精神文化のつながりを追う―

【2004年】**くらしの中の考古学ー考古雑学の楽しみ方ー　■講　師**：青野友哉（伊達市教育委員会　文化財係・学芸員）

第1回	4月25日	北黄金貝塚の縄文人とわたしたち-考古雑学の楽しみ方-
第2回	5月30日	土器の形とワインボトルー底の形の違い
第3回	6月20日	寄鍋とシチューと雑炊と…―「おこげ」の観察―
第4回	7月25日	黒曜石のナイフから包丁まで―最後の黒曜石ナイフ―
第5回	8月29日	漬物石は石器か？―石器認定の基準―
第6回	9月26日	模様のある器とない器ー模様の文化的・精神的意味―
第7回	10月24日	数珠とロザリオー祭祀道具としての玉類―
第8回	11月28日	クジラはうまい、イルカもうまい-海の神クジラとの関り

【2005年】**くらしの中の考古学ー考古雑学の楽しみ方ー　■講　師**：青野友哉（伊達市教育委員会　文化財係・学芸員）

第9回	4月24日	我が家は遺跡の上に立っている！？ー伊達市の遺跡分布ー
第10回	5月29日	「敵対的買収」は時代の流れ？ー狩猟採集社会から農耕社会へー
第11回	6月26日	「テレビガイド」の表紙の変遷ー「一括遺物」という考え方ー
第12回	7月31日	どうしてサイロは筒形なのか？ー住居の形と中身の関係ー
第13回	8月28日	縄文時代の「使い捨て」と「使い切り」ー土器の使い方あれこれ
第14回	9月25日	火どこの位置の変化ーいろりからガスレンジまでー
第15回	10月30日	除雪後の縞模様の観察ー地層累重の法則と年代決定ー
第16回	11月27日	縄文人の適材適所ーボジョレーヌーボーが透明ビンな理由ー

【2006年】**あの縄文遺跡を検証する　■講　師**：大島直行（伊達市噴火湾文化研究所　所長）

第1回	4月23日	青森県三内丸山遺跡
第2回	5月28日	苫小牧市静川遺跡
第3回	6月18日	富山県桜町遺跡
第4回	7月30日	千歳市美々貝塚北遺跡
第5回	8月27日	鹿児島県上野原遺跡
第6回	9月17日	函館市大船遺跡

（2）縄文体験イベント

縄文体験イベントは年に一度の限定された体験メニューとして行っている。これは、材料が常時用意できないこと（クマの皮なめし体験）や、季節が限られること（縄文の森収穫祭）などの理由もあるが、むしろ、異なったイベントを頻繁に行うことで、史跡に動的なイメージを与えることができると考え、実施している。しかし、これらのイベントの最大の利点は五感を使って縄文文化を体感できる内容にある。収穫したクリの味や、クマ皮の臭いなどは想像を掻き立てる重要な要素となっている。

さらに、縄文キャンプでは１泊２日の十分な時間があることから、個々の体験メニューを関連づけることが可能である。具体的には、自らが作った黒曜石のナイフで鹿肉や熊肉を切り、火起こし器でつけた火で調理し、食べ終わった貝殻や魚の骨は感謝の儀式とともに、貝塚に送られるといった具合である。最終的には竪穴住居の中で寝ることにより、「縄文人気分」を味わうことができる。

図３．だて噴火湾縄文まつり

５．「考古学的知識の習得」を目的としたメニュー

（1）講座

月に１回、史跡のガイダンス施設である「北黄金貝塚情報センター」のロビーで「縄文ロビー講座」を行っている。他の遺跡の解説や最新の考古学情報を提供しており、約30名前後の考古学ファンが聴講する。この講座では、参加者が考古学的な知識を得ることで、客観的に遺跡や遺物を判断し、より深い縄文文化の理解へつながることを目的としている。

講座への参加者のほとんどがリピーターであることから、情報の提供がリピーター獲得の大きな要素であることがわかる。

（2）フィールドワーク

フィールドワークを取り入れた授業を、地元の高校の総合的学習の時間に実施している。この高校は縄文時代の遺跡の上にあり、校舎の建築時に発掘調査がされている。これに関連させて、授業として地域の歴史文化を学ぶことにしている。

まずは、事前学習により、考古学の方法論についての概略を学ぶ。後日、グループ毎に異なる内容のフィールドワークを行う。グループは、①校舎周辺の踏査による遺跡範囲の推定調査、②新たな遺跡の発見を目的とした踏査、③北黄金貝塚隣接地での表面採取による遺跡の範囲推定調査、④行政調査での体験発掘、⑤実測・拓本作業の体験の５つに分かれている。

北黄金貝塚に関連した③のグループでは、はじめに「模擬体験発掘」により考古学的な発掘調査の方法と遺物の見方を学ぶ。その後、隣接する北黄金２遺跡で表面採取し、遺跡の範囲推定を行う。最後は採取した遺物の観察記録を付けて終了となる。

なお、2005年と2006年の成果として、②の踏査を行ったグループにより、新たに２遺跡が発見され、包蔵地として登録されている。

表３．イベントスケジュール 【2006年版】

開催日	曜日	時間	イベント	内容	料金	定員
4月22日	土	9：30～ 12：00	縄文スクスク森づくりの会 植樹	「縄文の森」に苗木を植えます	無料	なし
6月10日	土	9：30～ 12：00	縄文スクスク森づくりの会 下草刈り	草刈りと労働後のバーベキュー	1000円	なし
7月22日	土	9：30～ 12：00	縄文スクスク森づくりの会 下草刈り	縄文の森の草刈り	無料	なし
7月29・30日	土・日	13：00～	縄文キャンプ	実際の竪穴式住居に泊って縄文体験	2000円	20人
8月26日	土	9：30～ 12：00	縄文スクスク森づくりの会 自然観察会	公園周辺の自然観察	無料	なし
9月9・10日	日	10：00～ 15：00	だて噴火湾縄文まつり	ゲームや料理が盛り沢山のイベント	—	なし
			土器焼き	土器づくり参加者による野焼き	無料	—
9月30日	土	9：30～ 12：00	縄文スクスク森づくり 『縄文の森収穫祭』 *NEW!*	縄文の森産の焼き栗やコクワの実を味わいます	無料	なし
10月14日	土	13：00～ 15：00	クマの皮なめし体験 *NEW!*	クマ皮の脂を黒曜石の石器で取り除きます ※黒曜石のナイフ（複製）はもらえるよ!	500円	60人

6．まとめと課題

北黄金貝塚においては、来園者に応じた教育目標を設定し、実践してきた。体験学習の参加者数は、年間約２万人の来園者の内、８千人と半数弱を占めている。多様なソフトメニューとニーズに合わせた実施方法を用意できたことが、多くの参加者を得ることにつながったと考えている。

しかし、これら体験者数の大半は修学旅行生などの団体旅行客であり、短い時間で解説を聞き、体験メニューをこなしているにすぎない。もちろん、多くの人に実際の遺跡に立ってもらい、縄文文化や自分の住む町の遺跡について考える機会となっていることや、再度訪れる「きっかけ」となっていると考えるならば、ある程度の評価をされて良いだろう。しかし、当公園が掲げる「縄文文化を体感する」というコンセプトからすれば、教育目標は「縄文文化へのより深い理解」や「体感・実感」におかれるべきである。そのためには団体旅行客に対する十分な見学時間の確保が課題となる。また、より理想的なメニューと考えている個人体験メニューや各種イベントに、これまで以上の参加者を集めるためのＰＲも必要である。

さらに、史跡の教育面での活用の方法は、今のところ、管理団体である市教委が用意したメニューの中から利用者が選択するという段階で留まっている。

図４．伊達緑丘高校による遺跡踏査（2005年度）

学校教育との連携があるにしても、ほとんどは学芸員に「丸投げ」され、従来のメニュー通りに行われている。

今後は、学校や地域住民による企画で新たな活用が行われることを促すべきではないだろうか。それにより、史跡の活用の幅が広がるとともに、「市民のための文化財」との実感が沸くと思われるのである。そのためには、初期段階では、様々な利用のされ方があることを管理者がわかりやすく例示する必要があろう。

これまでも、幼稚園児の遠足や地元小学校の写生会などが行われているが、まだまだ史跡の教育的活用方法はあるはずである。史跡の管理者は、社会科だけではなく、あらゆる教科での活用が可能であることや、生涯学習の場ともなりうることを学校や社会に示し、市民のアイディアで活用してもらえるよう促していく必要がある。また、当然のことではあるが、これらの活用は、史跡の現状やイメージを損なわない範囲で行っているという基本的な考え方を理解してもらうことにも努めなければならない。

【参考文献】

1）大島直行・青野友哉・真鍋建男　2002『史跡北黄金貝塚保存整備事業報告書－史跡等活用特別事業－』北海道伊達市教育委員会

2）大島直行　2004「北黄金貝塚－縄文の息吹が聞こえる史跡を目指して－」史跡等整備の在り方に関する調査研究会編『史跡等整備のてびき－保存と活用のために』事例編　文化庁文化財部記念物課　pp. 268－273

3）青野友哉　2004「北黄金貝塚の保存整備と活用」『日本遺跡学会会報』第２号　p. 7

4）青野友哉　2007「縄文遺跡を活かしたまちづくり」埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会編『埋蔵文化財の保存と活用（報告）－地域づくり・ひとづくりをめざす埋蔵文化財保護行政－』文化庁　pp. 60－61

5）青野友哉　2007「北黄金貝塚における植生復元と活用」『日本遺跡学会』第４号　pp. 20－23